デンマークにみる
普段着のデモクラシー

デンマークに半世紀暮らして見えてきたこと

2024年5月2日

ユーロ・ジャパン・コミュニケーション
小島ブンゴード孝子

EURO－JAPAN COMMUNICATION

孝子のプロフィル

www.eurojapancom.jp/　office@eurojapan.dk

- 東京生まれ
- デンマーク在住51年目
- ユーロ・ジャパン・コミュニケーション社代表(1983年～　)
- 通訳・翻訳・企業コンサルティング(～2000年)
- 日本で:講演・セミナー活動

  やさしい介護・北欧式トランスファーセミナー(2004～2018年、9000人以上参加)

  佐久大学信州短期大学部特任教授(2010年～2018年)
- デンマークで:研修企画コーディネート・執筆活動
- 主な著書:

「デンマークの女性が輝いているわけ」 2020年　大月書店(共著)

「デンマークにみる普段着のデモクラシー」 2023年　かもがわ出版(共著)

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

「デンマークにみる普段着のデモクラシー」

＊医療・福祉・教育・政治・人びとの生活・働き方・家族・文化など
それらすべての根底に、デモクラシーが流れている
「どこを切っても金太郎あめのようにデモクラシーが出てくる社会」

＊デンマークには多数決でないデモクラシーがある
いかに少数派の意見を社会に反映させることができるか

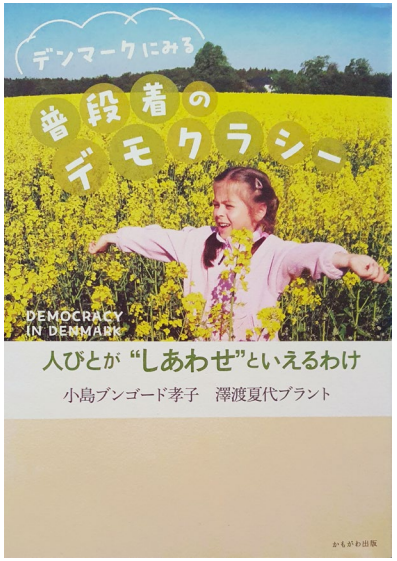
＊キーワードは、

対話

信頼と連帯

個と社会のバランス

多様性の中の平等



Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

北欧の光とデンマークの「国のかたち」

- 上からの光と下からの光　　デモクラシーが生まれ、根付いた流れ

lyse op (light up) → oplysning (enlightment) 啓蒙/啓発教育

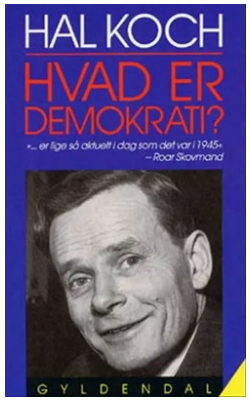
19世紀のフォルケホイスコーレ

現代のフォルケホイスコーレ　若者もシニアも

レーヴェントロー　1748–1827

グルントヴィー　1788－1872

スタウニング　1873－1942

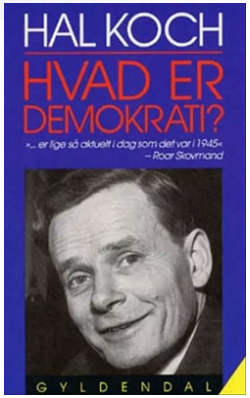


ハル・コック　1904－1963

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

ハル・コック著 「デモクラシーとは何か」



- 民主主義は、完成されるべきシステムでも教理でもない。
  それは自分のものにすべきひとつの生活様式である。

- 合理的に理解されるよう対話を通じて努力する、これが民主主義である。
  その本質は、話し合い（対話）と相互の理解および尊重である。

- 人間的な覚醒、すなわち啓蒙と教育、それなしには民主主義は危険なものになる。

- 多数派というのは、まさに怪物だ。
  多数派主導の調整が、最高度に非民主主義的だ。

対等・平等な話し合いで解決・決定できる共同市民性を目指してほしい

- 権威主義国家では、決定がなされると反対意見は沈黙する。
  しかし民主主義社会では、あらゆる決定が相対的で、正しいことがらへの接近にすぎず、それゆえに、討議は止むことがない。

「生活様式の民主主義　デンマーク社会の哲学」（小池直人訳）

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

19世紀からの流れ

- 1814年　義務教育の始まり　（世界で最も早い）　＜レーヴェントロー＞
- 1849年　民主憲法制定(専制君主制から立憲君主制へ)
- 1800年半ば～　小規模農業経営者→協同組合を組織(自由＋教育＋連帯)
  ＜グルントヴィー＞
- 1864年　ドイツ(当時のプロシア)に敗戦　人的資源で国復興の気運
- 1871年　女性の全国組織(Dansk Kvindesamfund)結成
- 1899年　労働組合と雇用者間のストライキ・ロックアウト→労使協定
- 1915年　女性が国政選挙権を獲得
- 1930年代：　社会制度改革法→社会福祉国家の基盤が形成された
  ＜スタウニング＞
- 1940-45年：　第二次世界大戦　ナチスドイツに占領された ＜ハル・コック＞
- 1950-60年代：　戦後好景気　労働者不足 女性社会進出→公共福祉の必要性
  社会民主党中心の政治体制→税金で皆が社会を支える
- 1970年代:　地方分権制度確立
- 1983年　所得税申告制度改正　既婚女性の個別納税が認められた
- 1980年代：　不況：失業・少子高齢化→予算削減　公共サービスの合理化
- 1990年半ば～　不況から脱却

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

デンマークの社会基盤

- 国にとり最も大切なものは・・・ひと＝資源

① 人的資源のレベルアップ:	教育は国最大の投資（公共）
② 人的資源をフルに活用:	男女ともに働く 良い労働環境づくり
③ 人的資源をたいせつに:	公共福祉・医療の整備（公共）

教育・福祉・医療すべてがゆりかごから墓場まで
連帯精神で皆が社会を支える＝高福祉（医療・教育）高負担

- デンマークの税金

所得税（国税＋地方税＋保健税）：平均すると約45%
消費税（付加価値税）：25%（教育活動を除くすべての商品とサービス）
タバコ、アルコール、自動車等への特別税

教育：　基本的に無料
医療：　基本的に無料　薬代の一部個人負担
福祉：　大半の経費を国と地方自治体が負担
国民年金：　以前は65歳だったが、段階的に2022年までに67歳へと引き上げられた
現在それ以降の引き上げの可能性につき検討中

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

デンマークの「人のかたち」

- 幼年期にめばえるデモクラシー

＊夫婦共働き社会 → 96%の幼児は保育所

＊保育と幼児教育　ペダゴー（社会生活指導員）

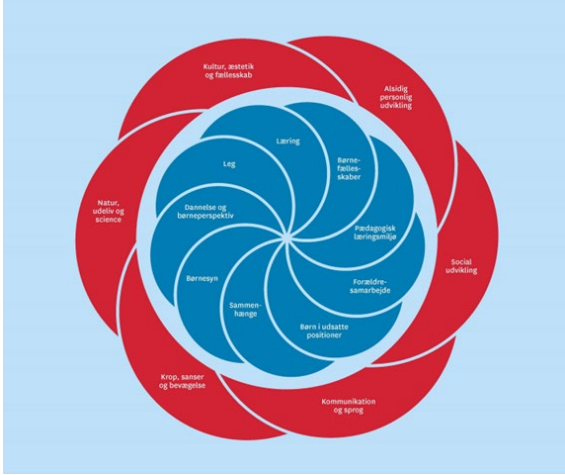
ひとりひとりが価値ある存在

決定に参加する

共同体の一員であると認識する

⬇

自己決定・自助能力・自己肯定感



子ども目線でのデモクラシーと
決定への参加

子ども/教育省

保育/幼児教育ガイドライン
6つの学びプラン
1. 総合的人格形成
2. 社会性の発達
3. コミュニケーションと言語
4. 身体、感覚、運動
5. 自然、野外活動、科学
6. 文化、美意識、共同体

Copyright: Euro-Japan Communication

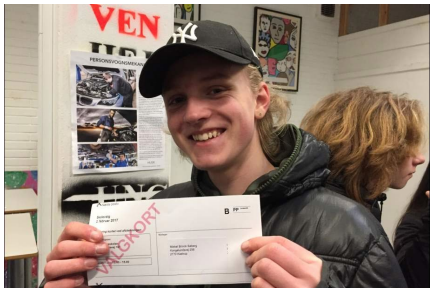
EURO－JAPAN COMMUNICATION

デンマークの「人のかたち」

- 義務教育で学ぶデモクラシー
  - ＊考える、伝える、聞く、話し合う
  - ＊学校理事会と生徒会
  - ＊疑似選挙
  - ＊青少年国会
  - ＊こども市議会

授業はたのしい

生徒参加の学校理事会



疑似選挙での投票風景

こども市議会

- 若者たちのデモクラシー
  - ＊卒業後の進路　3つの選択　自分で決める
  - ＊成年年齢　＊精神的な自立と経済的な自立

二十歳で
親離れ

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

生活の中のデモクラシー

- 「信頼と連帯」で成り立っている社会
  ＊福祉社会の基本は、信頼と連帯
  ＊デジタル社会の基本も、信頼と連帯
  ＊コロナ・パンデミックでみえた　国と人びとの信頼と連帯

- 「対話」のたいせつさ
  ＊政治舞台における対話
  ＊デモクラシーの祭典
  　　「フォーク・ミーティング」
  ＊職場でのデモクラシー
  ＊ユーザーデモクラシー
  ＊家庭内のデモクラシー

- 多様性と平等
  出る杭は打つのではなく、育てよう！

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

付録① デンマークという国

- 人口：約590万人（日本の約1/21、移民は約12%）
  面積：日本の約1/9 （北海道の約1/2）

- ヨーロッパ最古の王室
  今年1月マルガレーテ女王の生前退位でフレデリック10世誕生
  1867年に日本と修好通商航海条約を締結し、国交樹立
  開かれた王室

- デンマークの政治
  一院制（議員数：179名） 多党政治(12)
  2022年11月1日総選挙　 3党連立内閣誕生(与党89、野党86)
  投票率：84.2%、女性議員：43.5%、議員の平均年齢：42.83歳
  最年長75歳（70代は1人）、最年少21歳（20代は14人）
  首相：46歳女性
  閣僚：大臣の平均年齢47歳　女性大臣　23名中8名

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

付録② 最近の国際比較調査にみるデンマークと日本

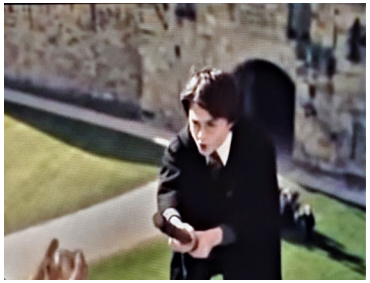
- 国内総生産(GDP)　　一人当たりの国内総生産 （2023年、IMF）
  日本　4位　　デンマーク　37位　　デンマーク　9位　　日本37位
- 世界幸福度調査
  デンマーク　2位　　日本　47位 （137ヶ国、2023年、国連）
- 腐敗認識指数（社会の透明度）
  デンマーク　1位　　日本　18位 （180ヵ国、2022年、IPC）
- 国際競争力調査
  デンマーク　1位　　日本　35位 （63ヵ国、2023年、IMD）
- 電子政府調査（公共機関のデジタル化）
  デンマーク　1位　　日本　14位 （193ヵ国、2022年、国連）
- 環境パフォーマンス指数
  デンマーク　1位　　日本　25位 （180ヵ国、2022年、YCELP）

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

孝子の人生ターニングポイント ① & ②

- 早くも小学6年生、11歳の夏　1961年　60年代
  イギリスで開催された国際子ども夏期キャンプ(CISV)に参加
  はじめて踏んだ外国の地は・・・・デンマークのコペンハーゲンだった！



ハリーポッターの城
アニックキャッスルで

- 大学卒業・新米教員　22歳の夏　1972年　70年代
  オーストリアでのCISVキャンプに日本チームのリーダーとして参加。デンマークチームのリーダー(現在の夫)との出逢い。翌年1973年4月日本で婚約、5月単身デンマークへそして結婚。

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

孝子の人生ターニングポイント ③

- デンマーク生活10年目に1度目の壁　　80年代

子育て、日本大使館や日本関連企業でフルタイム勤務

このままのサラリーマン・ママでよいのか？　孝子らしい生き方とは？

独立したい！　私の武器はことば　　ことばでデンマークと日本の橋渡しを

デンマーク語・英語・日本語で通訳・翻訳の仕事をしよう

自分の存在を知ってもらわなければ

約500通の手紙をデンマークの有力輸出企業に配信

日本はバブル、デンマークは経済不況、日本は魅力的なマーケット

時代の波に乗り、次第に引手あまたの忙しさ

日本からの視察団は視察先でも電圧100ボルトのまま

このままではショートするゾォ～！

私の役目は、100ボルトと220ボルト思考の変圧器

- 由紀子さんの『「寝たきり老人」のいる国いない国』出版

デンマーク福祉への関心が一気に高まる　　誰からも同じ質問が！

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

孝子の人生ターニングポイント ④ & ⑤

- 孝子2度目の壁　　90年代後半

  変圧器の限界：これだけでは自分の考えや意見を自由に発信できない！

  よし、孝子が発動機になろう！

  ＊孝子独自の研修企画コーディネート

  ＊日本での講演活動

  ＊日本に向けて執筆活動

- 日本の高齢者介護への挑戦状　　2000～2018年

  2000年日本は介護保険制度導入　若い介護職員が「つらい介護」に悲鳴・腰痛

  これはまずい、何とかしなければ！

  デンマークで普及している介助法を日本に紹介しよう！

  ＊介助者も大切な人材・人的資源

  ＊人間工学に基づく理にかなった自然の動きで介助

  ＊日本各地で啓蒙活動　　目からうろこ！

  ＊お客様にしてあげるサービス→介護する人される人どちらにもやさしい介護へ

  ＊マニュアル通りの介護→考える介護へ　　日本人はどうもこれが苦手？

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

孝子の人生ターニングポイント ⑥ & ⑦

- **コロナ・パンデミック** 2020～2022年

  鎖国状態となった日本　母国に帰れない！　2年半の空白期間

  ＊コロナ政策：あまりに違ったデンマークと日本の対応

  ＊日本のあやうさ　変わらない社会と人の意識　日本だいじょうぶ？

  ＊日本女性のパワーで日本を救えるか？　私たちに何ができるか？

  孝子・夏代でメッセージ発信「デンマークの女性が輝いているわけ」

- **アフターコロナ** 2023年、デンマーク生活50年

  ～ロシアによるウクライナ侵攻～そしてイスラエル/パレスチナ紛争etc.

  ＊きな臭くなった世界情勢　これから世界はどうなる？

  ＊デモクラシーの危機が叫ばれ　デモクラシーとは何かが問われる時代

  ＊日本のデモクラシーだいじょうぶ？　デンマークのデモクラシーはどう？

孝子・夏代コンビでふたたびメッセージ発信を決意！

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION

虫の目、鳥の目、そして歴史の目

＊由紀子さんの「科哲」総会記念講演記事のタイトル　まさにこれだ！

＊デンマークに半世紀暮らし、

デンマークの社会を歴史の目で学び、

虫の目で体験・観察し、鳥の目で理解しようと努力してきた　と同時に、

母国日本も、歴史の目を持ちつつ、

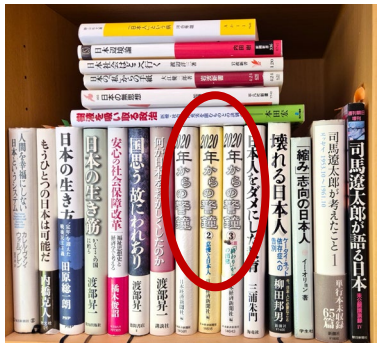
虫の目で現場体験をかさね、鳥の目でず～と見つめてきた

だからこそ見えてきたものがある

日本はいまこそ変わらなければならない！

あの「2020年からの警鐘」はもう鳴り止んでしまったのか？

メッセージ発信をいつまでも



＊7回裏のマウンド

お気軽にご連絡ください　office@eurojapan.dk

ホームページでも発信しています　www.eurojapancom.jp/

Copyright: Euro-Japan Communication

EURO－JAPAN COMMUNICATION